



～体も心も温まる「押し包丁(だご汁)」～

材 料 (約4人分)

- だし汁……………いりこ20g
水3カップ
- 小麦粉……………180g
- 大根・にんじん・
ごぼう・ちくわ……各40g
- 里いも……………60g
- 油あげ……………10g
- こんにゃく……………60g
- 干しいたけ……………2g
- 小ねぎ……………15g
- 塩……………2.5g
- 薄口しょうゆ…小さじ1杯
- みりん……………小さじ1杯

作 り 方

- ①大根・にんじん・里いもはいちょう切りにし、里いもは塩をふりぬめりをとる。干しいたけはもどして千切り、ごぼうはさがきにして、アク抜きをする。こんにゃくは薄切り、油あげは油抜きして短冊に切り、ちくわは半月切りにする。
- ②小麦粉に水を加えながらこねる。生地がまとまったら、打ち粉をしてめん棒で伸ばす。折りたたんで、端から食べやすい幅に切っておく。
- ③だし汁に①の材料を加え、塩・薄口しょうゆ・みりんを味を整える。
- ④③のだし汁に②を入れ、生地が煮えたら小口切りにした小ねぎを散らす。

押し包丁(だご汁)は、有明で昔から親しまれている家庭料理で、小麦粉を練った生地と野菜などをいっしょに煮込んだ、しょうゆ(みそ)仕立ての汁です。具たくさんで腹持ちも良く、エネルギー補給には最適。

寒い冬を元気に乗り切るために、体も心も温まる「押し包丁」を、皆さんぜひご賞味ください。

提供：市食生活改善推進員協議会



天草コレジヨ館開館20周年・
天草キリシタン館オープン記念シリーズ⑤

禁教の時代 ～天草崩れ～

天草・島原の乱が終結したあと、天草は江戸幕府の直轄地である天領となり、全国的な禁教政策のもとでキリシタンへの取り締まりはさらに強化されました。このような中、乱から164年後の文化2(1805)年、“天草崩れ”と呼ばれる潜伏キリシタン発覚事件が起きます。これは当時、牛や馬を殺すことが禁じられている中、牛殺しのうわさが発端となって発覚したものです。

この事件の結果、大江・崎津・今富・高浜の各村において、人口の約半分にあたる5,205人が摘発されました。本来、キリシタンは処刑されてしまいましたが、彼らはオラショ(祈りの言葉)を唱え、マリア観音や銭仏を礼拝するという独特の信仰形態をとっていたことを理由に、キリスト教ではなく異宗を信仰した「心得違」として、処刑はされませんでした。

その後、表向きは全員改宗しますが、水面下では潜伏キリシタンとしての信仰が守られ、明治時代へと至ります。



▲礼拝の対象となったマリア観音像(天草キリシタン館所蔵)

新年おめでと〜ござい
す。年始の過ごし方といえは、
もっぱら家でござろ〜寝正
月です。ただ、ここ数年は
嘔吐下痢症、インフルエンザ
と、いずれもやまに倒れて
寝込む正月に…。1年
の計は元日にあり。今年こ
そは、元気で幸先のよい幕明
けにしたいものです。
【素】

あけましておめでと〜ござ
います。毎年、新年の抱負を
たてます。生涯の登場回数No
1は、「今日できることは、
今日やる」。いやなことは後
回しにして最後に泣きを見る
タイプで、達成したためし
がないので、今年も同じ抱負で
一年いきます。なぜか今年
はできそうな気がします。
【海】

謹賀新年。最近、年のせ
いが毎朝髪の毛のようすが変
化しています。ちゅじゅが
んげや、まつすんかときがあ
り、髪型が毎日違っているよ
うです。性格はまつすんかと
思っているのですが。まあ、
そがん品のよか男でもなか
し、こんがんげ〜ときお
うていくしかなかな〜。
【凡】

